

第1号議案資料

2022年度事業報告書及び決算報告書

2022年度事業報告書及び決算報告書

A. 事業報告

循環型社会の構築を目指し、行政・消費者・産業界が緊密な連携のもとに3R（リデュース：発生抑制、リユース：再使用、リサイクル：再資源化、再生利用）活動を推進することを目的として、活動を行った。

2022年度は、コロナ禍が落ち着いてきたこともあり、2年ぶりに3R推進功労者等表彰の表彰式を対面式で開催した。

また、他団体との共催セミナーにおいては、サーキュラーエコノミーの企業等の取組発表会や、サーキュラーエコノミーと脱炭素社会の実現との両立をテーマにしたセミナーを行った。

イベントや委員会などはWeb会議形式で開催しているが、対面式やハイブリッド式にしていく意見が出席者等から出ており、社会情勢を鑑みつつ、次年度に向けた課題としたい。

個々の事業については、次ページ以降のとおりである。

2022年度事業報告書及び決算報告書

1. リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰の実施

3Rに率先して取り組み、顕著な実績を挙げている個人・グループ・学校・事業所・地方公共団体等を表彰する「リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰」を実施した。

2022年1月中旬に推薦要領を協議会会員団体、都道府県、政令指定都市、中核市、特別区、建設副産物対策地方連絡協議会に配付し募集を行った結果、16推薦機関（前年比4機関減）から71件（前年比19件減）の応募があった。

審査委員会（委員長 東京大学名誉教授 木村文彦氏 他13名）において厳正な審査を行った結果、内閣総理大臣賞1件（「個人・グループ・学校」分野は該当なし）、経済産業大臣賞1件、国土交通大臣賞4件、環境大臣賞2件リデュース・リユース・リサイクル推進協議会会長賞15件、計23件（前年比7件減）を表彰するとの結論に至り、10月24日（月）、東京・竹橋のKKRホテル東京において表彰式を挙行政した。

表彰式は、受賞者、同行者、推薦機関、報道機関含めて、47名のご出席があった。

新型コロナウイルス感染症の拡大を防ぐことも課題のひとつであったため、1受賞者につき1名での出席をお願いすると共に、人と人の接触を最小限に抑える動線や座席レイアウト設計を行い、会場手前での検温チェック、手指消毒のお願いなどの対策を施した。

2022年度事業報告書及び決算報告書

(1) 受賞者

内閣総理大臣賞 (1件)

カットショップシヨーン (「事業所・地方公共団体等」分野)

※「個人・グループ・学校」分野は該当なし

経済産業大臣賞 (1件)

株式会社クリエイトエンジニアリング

国土交通大臣賞 (4件)

株式会社竹中工務店 西日本機材センター ※

鹿島建設株式会社 建築管理本部 ※

岡谷鋼機株式会社 大阪店 ※ (※は、3者連名受賞者)

清水建設株式会社 東京支店 及び リサイクル研究会

西松建設株式会社 北日本支社 石狩新港西出張所

鹿島建設株式会社 関西支店 JCR ファーマ神戸工事事務所

環境大臣賞 (2件)

エフコープ生活協同組合

株式会社黒田工業

2022年度事業報告書及び決算報告書

(1) 受賞者 (続き)

リデュース・リユース・リサイクル推進協議会会長賞 (15件)

学校法人都築育英学園 リンデンホールスクール中高学部

阿蘇市立一の宮小学校PTA

第一三共ハピネス株式会社

キャノンプレジジョン株式会社

株式会社フーゲツ

株式会社岩手村田製作所

玉津・樫谷地区開発事業の内 西神戸工場開発・造成工事

株式会社竹中工務店 北海道支店 北海道地区FMセンター建替工事

株式会社竹中工務店 北関東支店 加須物流センター新築工事

株式会社竹中工務店 大阪本店 西日本機材センター ※

株式会社竹中工務店 大阪本店 安全環境部 ※ (※は、2者連名受賞者)

株式会社竹中工務店 東京本店 日本橋高島屋S・C本館改修工事作業所

西松建設株式会社 西日本支社 播磨建築出張所

鹿島建設株式会社・株式会社熊谷組 新東名高速道路 羽根トンネル工事特定建設工事共同企業体

株式会社長谷工コーポレーション (仮称) JR東浦駅前計画新築工事

乳井町会

2022年度事業報告書及び決算報告書

(2) 表彰結果の広報

受賞者の受賞した活動の概要をまとめた「令和4年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰結果発表」冊子を800部作成し、審査結果発表解禁日（10月21日）に合わせて関係省庁ご担当者、記者クラブに351部、また、100部を表彰式会場で受賞者等にそれぞれ配付した。記者クラブは、コロナ禍の期間に常駐者がほとんどいないところが増え、PDFによるメール配布を指示するところも出てきている。

協議会会員、推薦機関等に、1部ずつ（合計226部）配付した。

(3) 次年度に向けた対応

表彰件数は減少傾向にあり、推薦募集件数の増加のための方策については、審査委員会において継続的に審議している。

2022年度事業報告書及び決算報告書

(4) スケジュール

募集の期間を長くするために、前年度から募集を開始した。

<2022年度（令和4年度）の表彰の主なスケジュール>

2022年1月17日 推薦募集開始（推薦機関への案内、ホームページ等で紹介）

～ 2022年度開始 ～

4月18日 推薦募集締切

5月～9月 審査（書面審査、審査委員会）

10月20日 審査結果発表（解禁日）

10月24日 表彰式

12月 4日 次年度に向けての検討（審査委員会）

2022年度事業報告書及び決算報告書

2. リデュース・リユース・リサイクルキャンペーンマークの普及・利用促進

企業・地方自治体・市民団体・業界団体・学校等の要請に応じて、3R実践活動や啓発・教育活動の場でリデュース・リユース・リサイクルキャンペーンマークを広く使用していただくことにより、3Rに対する意識の向上や啓発を図った。

3R推進功労者等表彰や3R関連のイベントなどの場を活用して、3Rに積極的に取り組む企業・グループ・団体等に対して3Rキャンペーンマークの利用を勧め、3R推進のアイコンとしての認知度向上を図ると共に、人々の目に触れる機会を増やして3Rに対する意識の訴求を図っている。

企業等からの申請件数は14件あった。ここ数年は毎年20件前後で推移していたが、少なめの年となった。傾向としては地方の中小企業からの申請が増えている。

2022年度事業報告書及び決算報告書

3. 活動強化策の実施

協議会活動を充実させるべく、活動強化策を継続している。内容については、企画運営委員会で審議の上で実施した。

(1) 企画運営委員会等の開催

1) 企画運営委員会

前年度に引き続き、協議会活動を充実させるべく活動強化策の具体的な内容の検討や意見交換を行った。

<実績>

第1回企画運営委員会 2023年 3月 7日 (Web会議)

(ポスター選考会) 2022年 7月13日 (Web会議)

次ページに委員名簿を掲載する。

2022年度事業報告書及び決算報告書

<2022・2023年度企画運営委員>

(委員長)	中田 良平	スチール缶リサイクル協会 専務理事
(副委員長)	根村 玲子	公益社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会 環境委員会委員長
(委員)	加藤 聡	ガラス再資源化協議会 代表幹事
	田中 希幸	ガラスびん3R促進協議会 理事・事務局長
	新妻 弘章	建設副産物リサイクル広報推進会議
	工藤 操	一般財団法人消費科学センター 理事
	細川 浩之	一般社団法人セメント協会 生産・環境部門リーダー
	小田 直樹	電気事業連合会 立地電源環境部長
	奥田 篤	一般社団法人日本ガス協会 企画部 エネルギー・環境グループマネジャー
	天川 紀子	一般社団法人日本建設業連合会 安全環境部長
	羽富 修	一般社団法人日本産業機械工業会 環境装置部長
	長谷川喜規	一般社団法人日本自動車工業会 安全・環境領域2部 担当部長
	中原 靖	一般社団法人日本自動車部品工業会 技術部 次長
	島崎 直昭	一般社団法人日本道路建設業協会 常務理事
	井出 安彦	公益社団法人日本包装技術協会 包装材料研究室長
	富田 齊	一般社団法人プラスチック循環利用協会 広報学習支援部長

※ 委員名簿は、最新のご就任者

また、3Rに係る下記7省庁のご担当者にも、オブザーバーとしてご出席いただいている。
(7省庁) 国税庁、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、環境省

2022年度事業報告書及び決算報告書

(2) 企画内容

1) 優秀3R推進活動発表会

【開催日時】 2022年6月6日（オンライン開催）

【プログラム】 https://www.3r-suishinkyogikai.jp/seminar/winners/winners_r04/ に資料掲載

- 経済産業大臣賞受賞
国内初となる完全自社製AIを搭載した廃棄物自動選別装置【URANOS】等の環境機器の製造・開発による3Rの促進 <ウエノテックス株式会社>
- 国土交通大臣賞受賞
高含水比粘性土や地下茎・ガレキを含む土砂の分別除去および品質改良による現地発生土の有効利用 <回転式破碎混合工法研究会>
- 国土交通大臣賞受賞
建設現場従事者向けの講習会の開催による建設副産物の3R・適正処理等の推進 <公益財団法人産業廃棄物処理事業振興財団>
- 国土交通大臣賞受賞
伐採木と現地発生表土をリサイクルする法面緑化工法（ネッコチップ工法） <株式会社熊谷組>
- 内閣総理大臣賞受賞
研削材を何度も再使用し、産業廃棄物の発生を最小限に抑制する環境配慮型ブラスト工法 <ヤマダイインフラテクノス株式会社>

2022年度事業報告書及び決算報告書

2) 3R推進ポスターの制作・配布

工場、工事現場、オフィス、流通などのビジネス現場や公共の場において事業者により3R活動の推進を訴求する「3R推進ポスター」を制作し、10月の3R推進月間に合わせて会員団体や関係機関に配布した。

ポスターのデザインは、協議会主催によるデザインコンテストで公募し、その最優秀賞作品を使用した。コンテストはデザインを募集するという役割に加え、作品の応募者にデザイン制作を通じて資源について、もう一度考えてもらう機会にしている。

<デザインコンテスト概要>

デザイン募集期間： 2022年2月10日～6月6日
応募作品数： 263点

<3R推進ポスター>

ポスター印刷枚数： 800枚（A1サイズ）
配付先： 442宛先（674枚）

- ・協議会会員、地方公共団体、省庁は各2枚
- ・専門学校等は各1枚



2022年度の3R推進ポスター

2022年度事業報告書及び決算報告書

3) 3R連絡会

行政、会員団体等に情報を提供いただき、業種などを越えた広範な3R動向の把握、交流を図る。
コロナ禍で活動休止中。

4) イベント等の協業（セミナー、シンポジウムの後援、共催、出展等）

(1) 後援

- ・「実践活動としてのスチール缶を含む集団回収を通じて環境教育に取り組む小学校及び中学校への支援事業」（スチール缶リサイクル協会、2022年4月22日）
- ・「令和4年度建設副産物リサイクル広報用ポスター」（建設副産物リサイクル広報推進会議、2022年7月13日）
- ・「2022建設リサイクル技術発表会技術展示会」（建設副産物リサイクル広報推進会議、2022年8月18日）
- ・「第17回容器包装3R推進フォーラム」（3R推進団体連絡会、2022年10月18日）

(2) 出展

- ・第16回3R推進全国大会 in 東京（環境省、3R活動推進フォーラム）
開催日：2022年10月27日
開催方法：オンライン配信

2022年度事業報告書及び決算報告書

4) イベント等の協業（セミナー、シンポジウムの後援、共催、出展等）（続き）

（3）共催

- ・ 3 R・循環経済先進事例研究発表会

（3 R活動推進フォーラム、クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンスとの共催）

開催日： 2022年12月12日

会場： Web会議システムによるオンラインセミナー

セミナー資料： 協議会ホームページで紹介予定

https://www.3r-suishinkyogikai.jp/seminar/3r_event/2022_3rce/

- ・ 循環・3 Rリレーセミナー（3 R活動推進フォーラムとの共催）

開催日： 2023年2月6日

会場： Web会議システムによるオンラインセミナー

セミナー資料： 協議会ホームページで紹介

https://www.3r-suishinkyogikai.jp/seminar/joint/joint_r03/

2022年度事業報告書及び決算報告書

5. 3R推進協議会事業活動の広報強化

1) 「3R推進功労者等表彰」推薦応募の掘り起こしについて

令和4年度の表彰に向けて、「サステナブル・マテリアル展」（12月7日）、
「エコプロ2022」（12月8日）の会場において、3R・資源循環の取組を行っている
企業等の取組内容をヒアリングし、特に優れた活動をしている企業には表彰制度の紹介を
行った。

2) ホームページ

新着情報を中心に、協議会、協議会会員団体のトピック、3Rの関連情報を発信している。

2022年度事業報告書及び決算報告書

B. 決算報告

収支については、収入はほぼ予算どおりであったが、支出は予算より減少した。

減少となった主な要素としては、イベント等をWeb会議システムによる開催を行ったこと、また印刷物の部数見直しなどにより、それほどコストが掛からなかったことが主である。

また、年度内における資産の増減という点では、ほぼ増減なしであった。

なお、郵送や物流、印刷物などの費用の単価が上昇傾向にあり、支出の重荷のひとつになっている。可能な範囲で印刷物をデジタル化していくことにより削減を図っているが、今後も継続課題として考えていく。

収支決算書、正味財産増減計算書、貸借対照表、財産目録及び計算書類に対する注記は、次ページ以降のとおりである。

2022年度事業報告書及び決算報告書

B. 決算報告（続き）

リデュース・リユース・リサイクル推進協議会

2022年度収支決算書

自 2022年 4月 1日 至 2023年3月31日

（単位：円）

科 目	予算額	決算額	差 額	備 考
I 収入の部				
1. 会費収入	4,130,000	4,050,000	△ 80,000	※1団体退会
2. 雑収入（受取利息収入等）	0	52	52	
3. 前期繰越収支差額	5,447,000	5,447,299	299	
当期収入合計（A）	9,577,000	9,497,351	△ 79,649	
II 支出の部				
1. リデュース・リユース・リサイクル 推進功労者等表彰事業の実施	3,400,000	3,339,859	△ 60,141	委員会関係費、推薦要領・表彰結果冊子印刷費・発送費、表彰状 作成費、表彰式会場費等
2. 3Rキャンペーンマークの普及	50,000	0	△ 50,000	費用発生なし
3. 企画運営委員会経費	0	0	0	委員会等は、オンライン形式で開催
4. 3R推進事業費	1,000,000	635,174	△ 364,826	Webサーバーレンタル費、ドメイン名使用料、優秀3R推進事例発 表会（講演謝金のみ）、3R推進ポスター（作品募集、印刷、賞 金）、3R活動推進フォーラムとの共催イベント（講演謝金の み）※3R推進全国大会は、オンライン開催のため、支出なし
5. その他経費	50,000	0	△ 50,000	総会・理事会開催費用（オンライン開催のため、支出なし）
6. 事務局経費	0	0	0	上記1～5に係る事務局経費（人件費及び事務局運営諸費用）。 実際に発生した事務局経費は、協議の結果、産業環境管理協会が 負担
7. 管理費	100,000	23,404	△ 76,596	通信費、消耗品購入費、振込手数料等（直接事務に係る費用のみ。 事務局運営諸費用を除く）
当期支出合計（B）	4,600,000	3,998,437	△ 601,563	
当期収支差額（A）－（B）	4,977,000	5,498,914	521,914	

2022年度事業報告書及び決算報告書

B. 決算報告（続き）

正味財産増減計算書

（2022年4月1日から2023年3月31日まで）

（単位：円）

科 目	金 額
I 増加の部	
当期経常収益	4,050,052
増加額合計	4,050,052
II 減少の部	
当期経常費用	3,998,437
減少額合計	3,998,437
当期正味財産増減額	51,615
前期繰越正味財産額	5,447,299
期末正味財産合計額	5,498,914

2022年度事業報告書及び決算報告書

B. 決算報告（続き）

貸借対照表

2023年3月31日現在

（単位：円）

科目	金額	科目	金額
I 資産の部		II 負債の部	
現金	17,282	未払金等	28,750
普通預金	5,073,462		
未収入金	0		
前払費用等	436,920	III 正味財産の部	5,498,914
合計	5,527,664	合計	5,527,664

2022年度事業報告書及び決算報告書

B. 決算報告（続き）

財 産 目 録 2023年3月31日現在

（単位：円）

科 目	金 額
I 資 産 の 部	
現金 現金手許残高	17,282
普通預金 三菱UFJ銀行本店	5,073,462
未収入金	0
前払費用	436,920
資 産 合 計	5,527,664
II 負 債 の 部	
未払金等	28,750
負 債 合 計	28,750
正 味 財 産	5,498,914

2022年度事業報告書及び決算報告書

B. 決算報告（続き）

計算書類に対する注記（2022年度）

1. 重要な会計方針

(1) 資金の範囲について

資金の範囲には、現金、預金、未収入金、前払費用及び未払金を含めている。
なお、前期末及び当期末残高は2.に記載のとおりである。

(2) 消費税は、税込方式を採用している。

2. 次期繰越収支差額の内容は、次のとおりである。

（単位：円）

科 目	前期末残高	当期末残高
現 金	17,282	17,282
普 通 預 金	4,965,070	5,073,462
未 収 入 金	80,000	0
前 払 費 用	443,987	436,920
（ 合 計 ）	5,506,339	5,527,664
未 払 金	59,040	28,750
（ 合 計 ）	59,040	28,750
次期繰越収支差額	5,447,299	5,498,914